



森とイエ通信

Vol.04

春が感じられるようになってきました。これから、次々と打ちあがる花火のように、一気に草花の芽が吹いて、花が咲いてゆきますね。この春が来る高揚感北国の人にしかわからない喜びですね。少し暖かい日が続いたので、衣替えや模様替えがしたい欲求にかられていますが、例年フライングになってしまうので必死で気持ちを止めています。そう思いながら、我慢できない自分に何度も裏切られているのですが…。

そんな私を尻目に「森とイエ通信」のデザインはちよっぴり変わりました。大変身ではないので気づかない方もいらっしゃるかもしれませんが、気になる方は前の号と比べてみて下さい。読んで下さっている皆さんにちよっぴり語りかけられるこのコーナーを設けてみました。入れ替わりでメンバーに書いてもらおうと思っていますので、お楽しみに。

私、昨今の今頃「森とイエ」に関わらせて頂いていたことを思い出しました。内容の濃い1年でしたので、もうずいぶん長く関わらせているような気持ちです。メンバーもお客様も携わっている皆さんと話をすると、前向きな力というか希望というか、そんなワクワクする気持ちを感じます。そんな気持ちを一緒に感じていける方が、今年もまた増えるといいなと思います。年度替わりで忙しくなる時期ですが、心身共に健康第一ですよ！時々春の空でも見上げて深呼吸して下さいね。(新海)

「森とイエ」プロジェクトが
独立行政法人建築研究所の
すまいづくり表彰
地域住宅奨励賞(地域部門)
受賞しました！

地域の住文化に根ざし、人に優しく、地域に優しく、そして地球に優しくこれからの未来に向けたすまいづくりの取り組みを表彰する「すまいづくり表彰」。全国の様々な事例の中から選ばれ、3月6日に東京で表彰式がありました。全国に向けて広がれ！「森とイエ」！

ヤッター！

コンサルジユ

「森とイエ」にはコンサルジユがいます。
(一財)下川町ふるさと開発振興公社クラスター推進部の相馬さんです。「森とイエ」で住まいを考えたいという際、最初にお客様が相談される窓口になる方です。家が出来るまで、そして出来上がった後も頼りにされている相馬さん。建て主さんからの信頼も絶大で、「相馬さんがいて良かった！」という声を私は何度も聞きました。

ご相談を頂いても、「森とイエ」ではない方がその人の要望が叶うのではないかと判断すれば、せつかくお客様でもはっきりとそれを伝えるのだそう…。そんなお客様目線が信頼に繋がっているのだらうなと思うのです。建築家の皆さんからも、相馬さんがいることで安心して進められるというお話しも聞きます。「森とイエ」の一番のキーパーソンは間違いなく相馬さんです。しかしながら、あまり表に出てくることはなく、イベントなどでは不思議なほどに気配を消します(笑)。(新海)

相馬さん

建築家と「森とイエ」③

小倉 寛征

「地産地消」という言葉を良く耳にします。地域で生産したものを地域で消費する。身の回りのものを活かし、楽しく暮らし続ける工夫です。これは疎化や人口減少に悩む地域の解決策としても注目されています。

「森とイエ」は、下川の「木」を使い、地元の「人」が工事をし、地域を愛する人がそこに住みます。まさに「家づくり」の「地産地消」と言えそうです。高性能でデザインの良い家が出来ること並び、地域社会と深い繋がりがあっても「森とイエ」の特徴の一つなのです。

「建築家」の職能として、一つ一つ丁寧に設計することはもちろん、その家が街並や風景の向上に貢献し、皆さんの地域への愛着に繋がることを目指しています。つまり、私たち建築家にとっても「地産地消」の「森とイエ」は、画期的でとても遣り甲斐のあるプロジェクトなのです。

現場便り 其二

(株)丸昭高橋工務店 高橋 利久

「森とイエ」プロジェクトがスタートして、色々な人と関わったことに感謝します。

現場サイドから見ると、今までは設計も施工も自社である程度頭に入っていました。しかし、設計図面を隅から隅まで確認をしなければならぬので、少し大変でした。現場で、大工職人との打ち合わせも四苦八苦。設計者に何度連絡を取り合ったか…。でも、今は慣れて、一段と施工技術も施工の速さも向上したように思います。大切な家づくりをする現場では、建主様との事前打合せを今以上にしていかなければならないと思います。「森とイエ」プロジェクトを信頼して工事を頼まれている事を忘れずに、頑張りたいと思います。

今までお世話になった建主様には、いつも職人に気を使って頂き、大変お世話になり、感謝いたします。ありがとうございます。

地元の木材の活用は次世代へのプレゼント

下川町産の木材をふんだんに使った家づくり、これが森とイエプロジェクトの住まいづくりの基本です。今回は、『地元の木材を使う』ことについて、ちょっと考えてみましょう。

日本は面積の2/3が森林の国なのに、住宅用木材の約7割は輸入品ともいわれています。使える木が山にたくさん生えているのに、わざわざ外国から買ってくるわけです。地元の木材が売れない⇒木材産業が衰退⇒森林を守り育てる資金が足りない⇒森林が荒れる、まさに悪循環です。こうした現状に対し、下川町では森を守り育てる正しい循環を維持し、次の世代にバトンタッチするための取り組みを行っています。

森とイエでは、柱や梁などの構造部分をはじめとして、できるだけ多くの部分に地元下川で生産された木材を使うことで、この取り組みを応援しています。地域の木材で家を建てることで、施工⇒工務店⇒製材工場⇒森林管理者への経済循環が生まれ、町には雇用が生まれ、きちんと手入れされた森の木々は、やがて子供や孫の世代が家を建てるための木材となります。地元産の木材を選ぶ、それだけで貢献できることがあるのです。みなさんも下川の木で家を建てて、次の世代に素敵なプレゼントをしませんか？(苅谷)

PR！「森とイエ」を知ってもらうための活動もしています。次はあなたの街へ…。

森とイエの家と暮らし展

ちょっと遅い報告となりますが、昨年11月22～24日、名寄市の駅横交流プラザ「よるーな」エントランスホールにて「森とイエの家と暮らし展」を開催いたしました。

多くの方々にこのプロジェクトを知っていただきたいと、7月から10月にかけて開催された2棟の住宅見学会(構造・完成)の他、建築家と工務店がそれぞれのこれまでの仕事をパネルで表現しました。更に住宅模型展示、住宅相談会、折り紙建築「カード作りワークショップ」とこれでもかというほど盛りだくさんの企画となりました。

どれだけ足を運んでいただけるかと、ハラハラ・わくわくで始まりましたが、開催時間と同時に名寄産業高校の学生がなだれ込み、臨時建築セミナー・パネル展、ワークショップへとテーブルを埋め、続いて子供から幅広い年齢層の方々がワークショップのテーブルを囲みながら会話し「森とイエ」のエッセンスを楽しく感じていただけました。これからも我々の家づくりが地域社会により良い響きとなっていくことを願い、報告とさせていただきます。(大野)

櫻井さんのワークショップ大盛況

名寄市長さんも見学に来て下さいました

北海道庁ロビーパネル展

前号で、「JapanHome & Building Show」でのパネル展示のご報告をしましたが、そのパネル展が2月12-13日に北海道庁のロビーにて開催されました。「森とイエ」の取り組みの他にも、道産材を活用した商品や取組みなどが紹介されていましたよ。仲間がいるのは心強いですね。

パンフレットあります

「森とイエ」では、この「森とイエ通信」の他、取り組みやご提案プランなどを掲載したパンフレットもご用意していますので、ご興味のある方はお気軽にご連絡下さい。PRにご協力頂けるお申し出も大歓迎です！